

Remain of foundation stone buildings in the Komekura area

米倉礎石群

【時代】飛鳥時代～奈良時代

ここから採集される瓦から飛鳥時代に建築され、奈良時代に建て替えられたと推定しています。

【呼称】米倉礎石群（こめくらそせきぐん）

炭化した米粒が拾えることから「米倉礎石群」と呼称されてきました。

■特別史跡 基肄城跡

National Special Historical Site Kii-jo Mountain Fortress

昭和 12 年 (1937) 12 月 21 日 国指定史跡

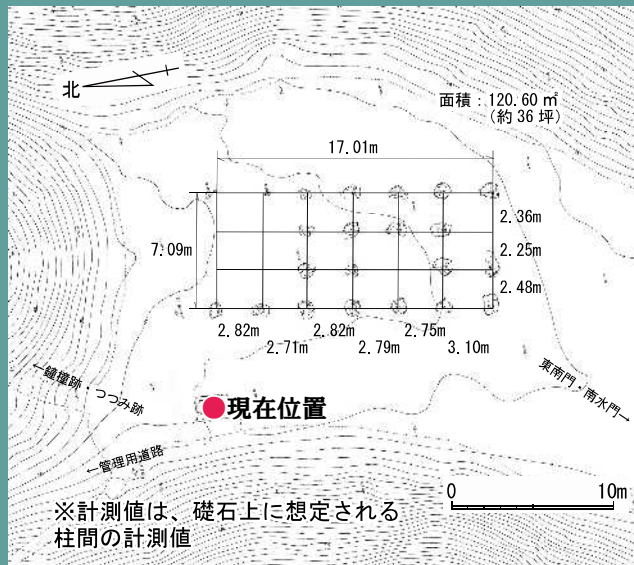
昭和 29 年 (1954) 3 月 20 日 国指定特別史跡

令和 5 年 (2023) 5 月 29 日 未来に残したい草原の里 100 選



米倉礎石群（上が南東）

現在、基肄城内に確認されている約 40 棟の礎石建物に使用されている礎石は、基肄城内で調達され、大宰府政庁にある正殿の礎石のように柱座を造り出さず、自然石の割り面をそのまま利用したつくりとなっています。



米倉礎石群遺構実測図

米倉礎石群は、基肄城内でも規模が大きな礎石建物で、桁間 6 間 (17.01m)× 梁間 3 間 (7.09m) の規模を有し、礎石から導き出される建物面積は、120.60 m² (約 36 坪) を測ります。

ここでは、炭化した米粒が採集できていたことから、「米倉礎石群」と呼称され、基肄城内にある約 40 棟の礎石建物群の中で、唯一、収納物が想定できます。この米倉礎石群がある丘陵上には、他にも 1 棟礎石建物が確認できており、詳細調査を行うとさらに広がる可能性があります。

米倉礎石群の北側、この丘陵の最上部につつま跡があり、奈良時代の法律『律令』にある「倉庫令」に規定された防火用水を配し、火災に備えたと考えられます。

■採集された炭化米

米倉礎石群で採集された炭化米で、長い年月によって炭化したと考えられます。

通称「焼き米」とも呼称されており、ここ米倉礎石群が火災にあった結果、収納物である米が炭化したと考えられがちですが、ここにある礎石群は赤い色に変色したものがなく、周辺に炭化した木材の破片が散在していないことから、米倉が火災にあい収納物が炭化したとは考えられず、約 1300 年という年月によって炭化したと考えられます。

大宰府の北の守りである大野城にも「焼き米ヶ原」と呼称される倉庫群が展開する場所があり、基肄城の米倉礎石群と同じように炭化米が採集されることが知られています。



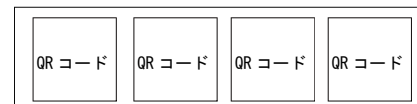
【炭化米】

【つつみ跡】



■つつみ跡

米倉礎石群の北東側、この礎石群がある丘陵の最頂部につつま跡があります。かつて昭和前期には水が湧き、夏場の子どもの憩いの場であったと伝えられています。



令和 9 年 (2027) 3 月 基山町教育委員会

※この文化財解説サインは、令和 8 年度歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（文化庁）補助金を活用して作成しています。